

# スマート農業技術活用促進法の認定による主な補助事業等の優遇措置（令和8年度当初・令和7年度補正）

- スマート農業技術活用促進法に基づく開発供給実施計画の認定を受けることで、令和8年度当初予算及び令和7年度補正予算において、以下の各種事業で審査に当たってのポイント加算をはじめとする優先採択等の優遇措置を設けることとしています。

## 開発供給実施計画を対象とする優遇措置

- 【R8当初】戦略的農林水産研究推進事業＜ポイント加算＞  
政府戦略や政府方針で掲げる農林水産業に関する目標や目指す姿の実現に向けて必要な技術の研究開発を国主導で推進するとともに、研究成果の社会実装に向け、知財の活用を見据えた研究開発時からの戦略的な知財マネジメントの強化など、研究成果の社会実装に向けた環境整備を実施。
- 【R7補正】スマート農業技術開発・供給加速化対策のうち
  - －重点課題対応型研究開発（民間事業者対応型）＜申請要件＞  
特に必要性が高いスマート農業技術の開発を促進するため、スマート農業技術活用促進法に基づく重点開発目標に沿った民間事業者による研究開発を支援。
  - －低コスト・小型化等現場ニーズ即応型開発＜ポイント加算＞  
中山間地域等の生産現場の即戦力となる技術の開発・実用化を推進するため、「低コスト」や「小型化」等の現場ニーズに基づく研究開発を支援。
  - －先行的研究開発支援＜ポイント加算＞  
スマート農業技術の研究開発を担う新たなプレイヤーの参画を推進するため、特に機動力、アイデアを有する高専や職業能力開発大学校等が行う民間企業と連携した供給につながる研究開発を支援。
  - －技術改良・新たな栽培方法の確立の促進＜申請要件＞  
開発技術を円滑に産地へ供給するため、メーカーとサービス事業者等によるプロトタイプ<sup>①</sup>の製造段階における改良や技術に適合した新たな栽培方法の確立を支援。
  - －スマート生産方式SOP作成研究＜申請要件＞  
スマート農業技術の導入を推進するため、導入効果を着実に発揮させる栽培体系やサービス事業者を介した技術の運用方法等を検証し、標準化する取組を推進。
- 【R7補正】アグリテック系スタートアップ重点化支援対策のうち
  - －スタートアップ創出強化対策＜ポイント加算＞  
SBIR制度のもと、革新的な研究開発・事業化を目指すスタートアップ・中小企業等を支援。優秀な若手人材の発掘・能力向上を支援。
- 【R7補正】生産性の抜本的な向上を加速化する革新的新品種開発のうち
  - －政策ニーズに対応した革新的新品種の開発＜ポイント加算＞  
今後の国内農業の基盤となる革新的な新品種<sup>②</sup>の開発等を産官学の連携により推進。
  - －新品種開発を加速化する作物横断的育種効率化基盤の構築＜ポイント加算＞  
ゲノム情報、AI、遺伝資源等をフル活用し、穀物、野菜、果樹などの新品種開発を加速化できる作物横断的な育種効率化基盤の開発を推進。
  - －食料安全保障強化に向けた水稲の低コスト・多収栽培技術の開発＜ポイント加算＞  
各地域における乾田直播や再生二期作に適した多収品種等を選定するとともに、その能力を最大限に発揮するための極めて低コストな栽培技術を開発。節水型乾田直播の確立に向けた水管理や雑草防除技術等を開発。
- 【R7補正】農林水産物・食品の輸出促進のうち輸出拡大に向けたニーズや付加価値の高い農産物の栽培・加工技術等の開発＜ポイント加算＞  
海外におけるニーズが高い輸出重点品目について、輸出先国の規制やニーズに対応した栽培・加工技術や、長距離輸送に対応した技術など、輸出拡大に資する技術を開発。
- （参考：農研機構）農業機械技術クラスター＜申請要件＞  
農業現場のニーズを的確に把握し、早期実用化を見据えた農業機械技術の研究開発を推進。  
<https://www.naro.go.jp/org/iam/cluster/index.html>

# 戦略的農林水産研究推進事業

令和8年度予算額 912百万円 (前年度 1,369百万円)  
〔令和7年度補正予算額 420百万円〕

**<対策のポイント>**  
政府戦略や政府方針で掲げる農林水産業に関する目標や目指す姿の実現に向けて必要な技術の研究開発を国主導で推進するとともに、研究成果の社会実装に向け、知財の活用を見据えた研究開発時からの戦略的な知財マネジメントの強化など、研究成果の社会実装に向けた環境整備を実施します。

- <事業目標>**
- 重要課題に対応する技術を開発し、農林漁業者等がその開発された技術を実践 [令和12年度まで]
  - 知財マネジメントの強化、アウトリーチ活動の展開により、農林水産業・食品産業にイノベーションを創出 [令和12年度まで]

## <事業の内容>

- 1. 研究開発 847百万円 (前年度 1,284百万円)**  
政府戦略や政府方針で掲げる農林水産業に関する目標や目指す姿の実現に向けて必要な技術の研究開発を国主導で推進します。
- ① **食料安全保障強化研究**  
生産性の抜本的向上や農業生産基盤の持続的な保全等に資する技術の研究開発を推進
  - ② **気候変動適応研究**  
温暖化に対する適応技術や将来の適地適作予測技術の研究開発を推進
  - ③ **輸出拡大研究**  
輸出先国・地域の規制やニーズへ対応するための技術の研究開発を推進
  - ④ **環境負荷低減対策研究**  
みどりの食料システム戦略の実現に資する技術の研究開発を推進
  - ⑤ **革新的技術創出研究**  
バイオテクノロジーを活用した革新的な技術の創出に資する研究開発を推進

- 2. 環境整備 65百万円 (前年度 86百万円)**
- ① **戦略的研究開発知財マネジメント強化事業**
  - ② **海外・異分野動向調査**
  - ③ **先端技術の社会実装の加速化のためのアウトリーチ活動の展開**

### (令和7年度補正予算) 関連事業

- ・ 食料安全保障強化に向けた水稻の低コスト・多収栽培技術の開発
- ・ 輸出拡大に向けたニーズや付加価値の高い農産物の栽培・加工技術等の開発
- ・ スギ花粉米の実用化に向けた安全性・有効性の検証

### <事業の流れ>



## <事業イメージ>

研究開発	<p><b>①食料安全保障強化研究</b></p> <p>【研究内容】 頭首工のパイピング監視技術と農業用パイプラインの漏水のリスク評価・位置特定技術の開発 等</p> <p>【期待される効果】 予知保全による効率的な農業用水の安定確保を通じ、食料安全保障の強化に貢献</p>	<p><b>②気候変動適応研究</b></p> <p>【研究内容】 農業・水資源の被害や適地適作の予測、適応技術の開発 等</p> <p>【期待される効果】 気候変動リスク回避と温暖化によるメリット活用による産地維持・新産地育成を通じ、農林水産業の持続性確保に貢献</p>	
	<p><b>③輸出拡大研究</b></p> <p>【研究内容】 マウス毒性試験に代わるホタテガイ等の麻痺性貝毒の正確な濃度決定手法の開発 等</p> <p>【期待される効果】 EU等へホタテガイの販路を維持・拡大することにより、輸出拡大を実現 等</p>	<p><b>④環境負荷低減対策研究</b></p> <p>【研究内容】 農薬使用量削減に向け、薬剤を効率的に土壌深層へ浸透させる施用技術の開発 等</p> <p>【期待される効果】 みどり戦略に資する技術の確立を通じ、環境と調和のとれた食料システムの確立に貢献</p>	
	<p><b>⑤革新的技術創出研究</b></p> <p>【研究内容】 環境負荷軽減や低コスト化に資するカイコの創出、飼料等へのサナギ利活用技術、革新的なシルクの開発 等</p> <p>【期待される効果】 資源を余すことなく活用するエコ養蚕システムの構築、新しい市場の創出 等</p>		
	<p><b>①知財マネジメント強化</b></p> <p>研究成果の効果的な社会実装のための知財マネジメントを推進</p>	<p><b>②海外・異分野動向調査</b></p> <p>海外・異分野の最新の研究開発動向等を俯瞰的に調査</p>	<p><b>③アウトリーチ活動の展開</b></p> <p>先端技術をわかりやすく伝える動画等のコンテンツを作成</p>
	<p><b>環境整備</b></p>		

【お問い合わせ先】 農林水産技術会議事務局研究企画課 (03-3501-4609)

## <対策のポイント>

スマート農業技術の社会実装を進めるため、スマート農業技術活用促進法の基本方針に位置付けた**重点開発目標**に基づき、**生産現場において優先度が**高く**即戦力となるスマート農業技術の開発・供給の取組**を支援します。

## <事業目標>

スマート農業技術活用促進法の開発供給事業の促進の目標に掲げる技術の実用化割合を100% [令和12年度まで]

## <事業の内容>

### 1. 重点課題対応型研究開発（農研機構対応型）

民間事業者による研究開発等を加速させるため、農研機構による**品目共通の基幹的技術**や**研究開発を促進する基盤的技術の開発**を推進します。

### 2. 重点課題対応型研究開発（民間事業者対応型）

特に必要性が高いスマート農業技術の開発を促進するため、スマート農業技術活用促進法に基づく**重点開発目標に沿った民間事業者による研究開発**を支援します。

### 3. 低コスト・小型化等現場ニーズ即応型開発

中山間地域等の生産現場の**即戦力となる技術の開発・実用化**を推進するため、「**低コスト**」や「**小型化**」等の現場ニーズに基づく**研究開発**を支援します。

### 4. 先行的研究開発支援

スマート農業技術の研究開発を担う**新たなプレイヤーの参画**を推進するため、特に機動力、アイデアを有する**高専や職業能力開発大学校等が行う民間企業と連携した供給につながる研究開発**を支援します。

### 5. 技術改良・新たな栽培方法の確立の促進

開発技術を円滑に産地へ供給するため、メーカーとサービス事業者等による**プロトタイプ**の製造段階における**改良**や**技術に適合した新たな栽培方法の確立**を支援します。

### 6. スマート生産方式SOP（標準作業手順書）作成研究

スマート農業技術の導入を推進するため、**導入効果を着実に発揮させる栽培体系やサービス事業者を介した技術の運用方法等**を検証し、**標準化する取組**を推進します。

## <事業イメージ>

### ① 農研機構対応型（協調領域）

品目共通のベースとなる技術（基幹的技術）や開発を促進する技術（基盤的技術）の研究開発

【基幹的技術の例】  
双腕型ロボットアームと模倣学習等の  
フィジカルAIによる高難度作業への対応

【基盤的技術の例】  
AI開発用教師データ

役割分担

### ② 民間事業者対応型（競争領域）

重要・高難度な技術の研究開発

【例】レタス収穫ロボット

【例】なしの管理作業（摘果）ロボット

### ③ 低コスト・小型化等現場ニーズ即応型開発

中山間地域等の生産現場のニーズを踏まえた**即戦力となる低コスト・小型化等の技術の研究開発**

【例】中山間地域向けの管理作業機の小型化（非乗用型への転換など）

### ④ 先行的研究開発支援

AIやロボティクス等のユニークな技術シーズを有する**高専や職業能力開発大学校等と民間事業者が連携した研究開発**

【例】  
独自の発想に基づき開発されるシンプルなトマト収穫ロボット

### ⑤ 技術改良・新たな栽培方法の確立の促進

開発事業者とサービス事業者が連携した技術の質的向上や**技術に適合した新たな栽培方法の確立**

【例】技術のユーザビリティの向上

### サービス事業者の関与が要件

### ⑥ スマート生産方式SOP作成研究

技術の導入効果を着実に発揮させる栽培体系やサービス事業者を介した**技術の運用方法等の検証、標準作業手順書（SOP）の作成**

【例】自動収穫ロボットの導入効果を最大化するための栽培管理体系の確立、アプリ化

技術開発・改良

横展開・供給

現場への円滑な技術供給

SOPを活用した全国各地への普及

[お問い合わせ先] 農林水産技術会議事務局研究推進課 (03-3502-7437)

## <事業の流れ>

交付  
(定額)

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構

(1の事業)

委託

民間団体等  
(公設試、大学を含む)

(2~6  
の事業)

国

# アグリテック系スタートアップ重点化支援対策

令和7年度補正予算額 2,070百万円

## <対策のポイント>

農林水産・食品分野における政策的・社会的課題の解決やサービス事業者等の新たなビジネス創出のため、SBIR制度※のもと、革新的な研究開発とその事業化を目指して取り組むスタートアップ・中小企業等を支援します。あわせて、**将来のアグリテックを担う優秀な若手人材を発掘し、研究開発や事業化に関する能力向上をサポート**します。

※スタートアップ等による研究開発とその成果の事業化を支援し、それによる我が国のイノベーション創出の促進を目的とした省庁横断的な制度（Small/Startup Business Innovation Research）。

## <事業目標>

終了課題のうち50%以上において、事業化が有望な研究成果を創出〔令和10年度まで〕等

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

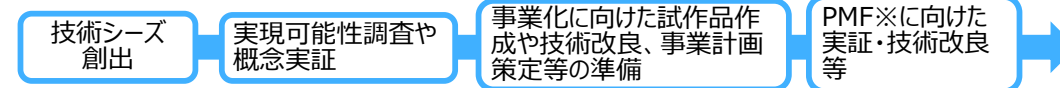
### 1. スタートアップ創出強化対策

1,070百万円

### 1. スタートアップ創出強化対策

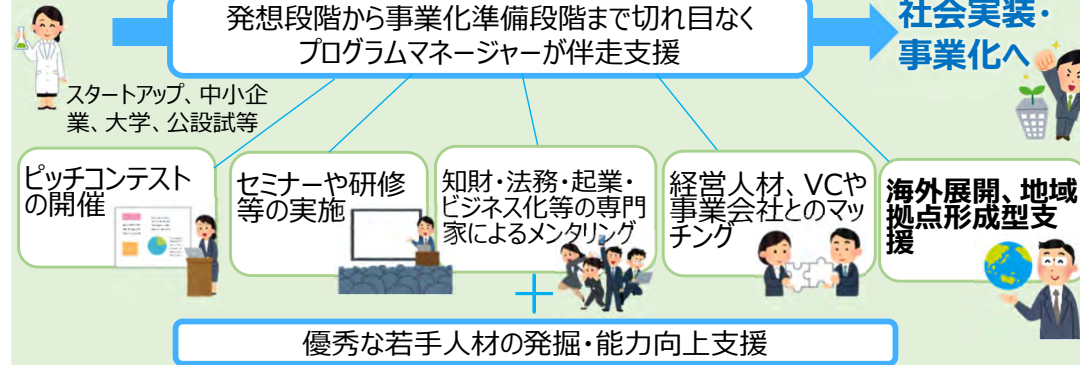


【研究開発・事業化の取組の内容】



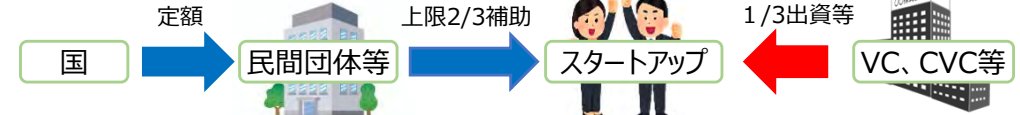
※PMF(プロダクトマーケットフィット):顧客の課題を満足させる製品を提供し、それが適切な市場に受け入れられている状態。

【支援内容】



### 2. スタートアップ大規模技術実証支援事業

マッチングファンド方式（VC等の出資を受けることを前提とし、VC出資額等の2倍まで補助）で支援



【お問い合わせ先】 農林水産技術会議事務局研究推進課（03-3502-5530）

#### ①スタートアップ等が行う研究開発・事業化を目指す取組の支援

発想段階から事業化準備までの取組を切れ目なく支援します。さらに、支援するスタートアップの事業化の確度を上げ、速やかな自立を後押しするため、事業化の方向性を固める上で重要なフェーズ1の期間を延長（1年→2年）します。

【フェーズ0、1：上限10百万円/年、フェーズ2：上限20百万円/年、事業化準備フェーズ（※）：上限30百万円/年】  
※ マッチングファンド方式（VC等の出資を受けることを前提とし、VC出資額等と同額まで補助）で支援。

#### ②スーパーアグリクリエーター発掘支援

将来のアグリテックを担う優秀な若手人材を発掘し、研究起業家としての能力向上を支援します。

#### ③プログラムマネージャー等による伴走支援等

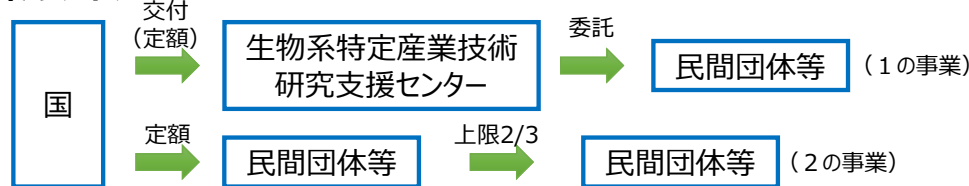
事業化に関する知見・経験を豊富に有するプログラムマネージャー等による、経営人材・事業会社・ベンチャーキャピタル（VC）等とのマッチング、知財・ビジネス化・資金調達等に関するメンタリング、ピッチコンテスト開催、海外展開や地域発スタートアップの連携構築などの伴走支援を行います。

### 2. スタートアップ大規模技術実証支援事業

1,000百万円

現場課題の解決に直結する革新的な技術の事業化を目指す農林水産・食品分野のスタートアップの大規模技術実証を支援します。

## <事業の流れ>



# 生産性の抜本的な向上を加速化する革新的新品種開発

令和7年度補正予算額 3,010百万円

## <対策のポイント>

生産性の抜本的な向上を加速化する多収性品種等革新的な特性を持った品種、開発した品種の利用拡大に資する栽培技術、省力的な種苗生産技術、育種素材の開発等について、新たに整備する高精度な分析機器も活用しつつ実施します。加えて、スマート育種技術を低コスト化・高精度化し、育種現場で簡便に利用できる育種効率化基盤を構築します。また、水稲の生産性の抜本的向上に資する技術の開発により、我が国の食料安全保障の確保に貢献します。

## <事業目標>

多収化や高温耐性などに資する35品種の育成 [令和12年度まで]

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

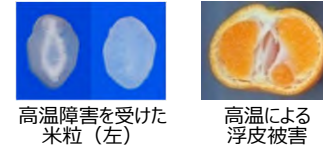
### 1. 政策ニーズに対応した革新的新品種開発

1,400百万円

### 1. 政策ニーズに対応した革新的新品種開発

- ◆革新的な新品種開発  
(多収性、機械作業適性、高温耐性品種など)
- ◆栽培技術・種苗生産技術の開発
- ◆育種素材の開発

生産性向上等により、食料・農業・農村基本計画のKPI達成に寄与



- ① 今後の国内農業の基盤となる革新的な新品種開発
- ② 品種の利用拡大に資する新品種の栽培技術、省力的な種苗生産技術の開発
- ③ 切れ目なく品種開発を継続するための育種素材の開発を産官学の連携により推進します。

### 2. より高精度な新品種開発のための分析機器等の整備

840百万円

### 2. より高精度な新品種開発のための分析機器等の整備

新品種開発、栽培技術・種苗生産技術の開発、育種素材の開発に必要な分析機器等の整備

より精度の高い特性評価等を行うことにより、ニーズに最適となる品種を確実に開発するため、新品種開発等に必要な分析機器等を整備します。

### 3. 新品種開発を加速化する作物横断的育種効率化基盤の構築

600百万円

### 3. 新品種開発を加速化する作物横断的育種効率化基盤の構築

スマート育種技術を低コスト化・高精度化し、多品目に利用できる育種効率化基盤を開発

- ・作物横断的な育種情報データベースの構築
- ・AI等により最適な交配親の予測や効率的な選抜ができる育種支援ツールの開発
- ・作物形質の計測を効率化する高速フェノタイピング技術の開発

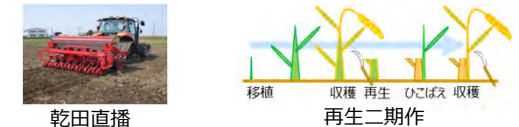


### 4. 食料安全保障強化に向けた水稲の低コスト・多収栽培技術の開発

170百万円

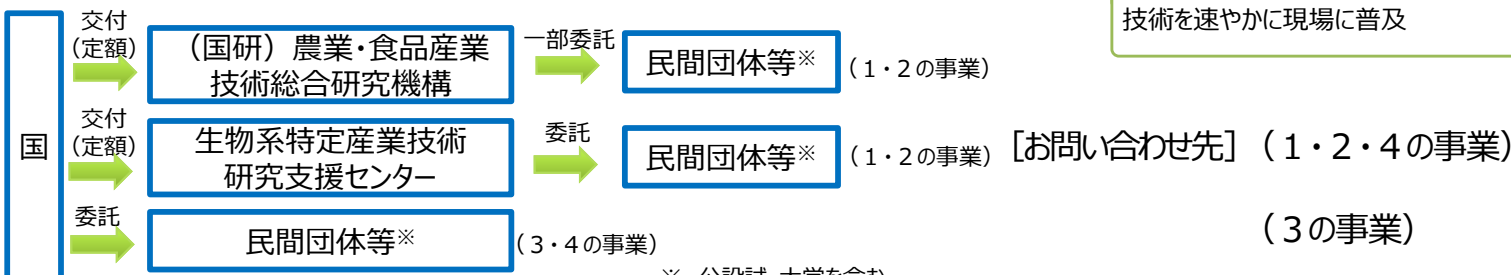
### 4. 食料安全保障強化に向けた水稲の低コスト・多収栽培技術の開発

水稲の低コスト・多収栽培を可能とする技術を開発し、マニュアルの作成・改訂等により、開発技術を速やかに現場に普及



各地域における乾田直播や再生二期作に適した多収品種等を選定するとともに、その能力を最大限に発揮するための極めて低コストな栽培技術を開発します。また、節水型乾田直播の確立に向けた水管理や雑草防除技術等を開発します。

## <事業の流れ>



※ 公設試・大学を含む。

農林水産技術会議事務局研究統括官 (生産技術) 室 (03-3502-2549)  
農林水産技術会議事務局研究開発官 (基礎・基盤、環境) 室 (03-3502-0536)

## <対策のポイント>

海外におけるニーズが高い輸出重点品目について、輸出先国の規制やニーズに対応した栽培・加工技術や、長距離輸送に対応した技術など、**輸出拡大に資する技術を開発し、「海外から稼ぐ力」の強化に貢献します。**

## <事業目標>

「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」で位置づける輸出重点品目の輸出拡大に貢献 [令和12年度まで]

## <事業の内容>

海外におけるニーズが高い輸出重点品目である**かんしょ、イチゴ及び茶**における以下の**研究開発を実施**します。

- ・輸出可能な生産量を確保するための**効率的生産体系**（かんしょ、イチゴ、茶）
- ・輸出先国の残留農薬基準に対応した**病害虫防除体系**（イチゴ、茶）
- ・長距離輸送に対応した**長期品質保持体系**（かんしょ、茶）
- ・輸出先国のニーズに対応した有機など高付加価値化に関する**生産・加工技術**（イチゴ、茶）

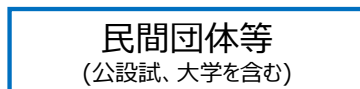


人力による多労なかんしょの移植作業



定型苗の効率的生産体系の確立

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

- ・マニュアルの作成等により、輸出先国の規制やニーズに対応した高付加価値化に関する栽培・加工技術や、長距離輸送時の腐敗の要因となる傷を防止する技術等の**研究開発**を行い、輸出拡大に資する技術を速やかに現場に普及



- ・今後成長する**海外の食市場を取り込み**、農林水産物・食品の**輸出の促進を図ることにより、海外から稼ぐ力を強化**

### 【期待される効果】

- ・海外でのニーズが高く、高付加価値・高品質の作物を安定的に生産
- ・輸出にも対応できる生産量を省力的に生産し、生産コストも低減
- ・長距離の輸送を可能とすることにより、輸出先国を拡大する体制を構築 など

農林水産物・食品 輸出額の推移

